

とぎつちよう うちどく すいしん
時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

ていがくねん (低学年) 2020年 夏号



発行：とぎつちようりつとぎつとしゃかん

うちどく 家読とは

かぞく みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく (家読)」です。
むずが 難しいルールは要りません。

かぞく みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

かぞく で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



「ぜったいひとつだからね」
ローレン・チャイルド/作 木坂 涼/訳
(フレーベル館)

チャーリーのいもうとローラはちょっぴりかわっている。そんないもうとが、さいきん「すうじ」にはまっている。

かいものについてママが「なにかひとつかっていいよ」っていつてくれたときにも、「その“ひとつ”って？」とローラの数え方はなんだかへん！！



「地面の下には、何があるの?—地球のまんなかまでどんどのびるしかけ絵本」
シャーロット・ギラン/文 ユヴァル・ソマー/絵
小林 美幸/訳 (河出書房新社)

みんながいつも歩いている地面。この下にはなにがあるとおもう?

みみずがいる?それとも水道管がある?もっともっと下には、いったいなにがあるんだろう?

このしかけ絵本で地面の下にかくれているなぞを知っちゃおう!!



「天女銭湯」

ペク・ヒナ/作 長谷川 義史/訳
(ブロンズ新社)

わたしの町には銭湯 (おふろやさん) がある。あるひ、おふろにはいっていたら、じぶんのことを「天女」となるおばあさんがとつぜんあらわれた。「え?このおばあさんが、天女?」——でも、このおばあさん、ただ者じゃなかった。



「ようこそぼくのおともだち」

野中 柊/作 寺田 順三/絵
(あかね書房)

「こつこつ こつこつ」とノックの音がしました。だれかたずねて来たみたいです。げんかんで出てみましたが、だれもいません。タタンはまどから外を見たり、うらぐちへ行ってみたりしましたが、やっぱりだれもいません。いったいだれ?どこにいるの?



「えほんなぞなぞうた」

谷川 俊太郎/文 あべ 弘士/絵
(童話屋)

せかい 世界はなぞなぞにあふれている。たとえば、「みちがあるけど あるけない。おみせもあるけど なにもかえない。」「おもてはおしゃれ うらはすっぴん いったりきたりいそがしい」これなーに?

さあ、おとうさんやおかあさんはいくつ答えられるかな?いっしょに考えてみて。



「字のないはがき」

向田 邦子/原作 角田 光代/文 西 加奈子/絵
(小学館)

わたしのちいさいいもうとは、そかい (せんそう中にとおくへひなんすること) して、かぞくとはなればなれになりました。まいにちとどくはがきにかいた〇 (まる) はげんきのしょうこでしたが…。

8月にこそ、かぞくみんなでよんでほしいえほんです。